

令和3年度 第1回焼津市総合計画等審議会 会議録

1 開催日時 令和3年4月26日(木) 午後1時30分～4時30分

2 開催場所 焼津市役所本館 6階603号室

3 傍聴者 なし(報道2名)

4 出席者 焼津市総合計画等審議会委員15名

井柳 美紀 (静岡大学人文社会科学部法学科教授)

岩崎 四郎 (焼津市自治会連合会会長)

河江 富男 (焼津市教育委員)

澤田 俊二 (大井川農業協同組合焼津統括支店長)

白石 一二朗 (焼津漁業協同組合経理部参与兼部長)

鈴木 政史 (静岡福祉大学社会福祉学部健康福祉学科准教授)

高松 浩美 (焼津市社会福祉協議会地域づくり課長)

多々良 尊子 (焼津市環境審議会委員)

原口 佐知子 (まちづくりファシリテーターMusubi 代表)

村松 文次 (焼津商工会議所事務局長)

篠宮 悟 (市民公募委員)

清水 敬明 (市民公募委員)

鈴木 翔太 (市民公募委員)

関 富美子 (市民公募委員)

林 紘一朗 (市民公募委員)

(事務局)

飯塚 真也 (行政経営部長)

伊東 義直 (行政経営部次長)

山下 敦史 (政策企画課長)

八木 澄人 (政策企画課)

服部 剛士 (政策企画課)

松田 智仁 (政策企画課)

池谷 阿子 (政策企画課)

小林 宏基 (政策企画課)

5 次 第

1 開 会

2 委嘱状の交付

3 市長あいさつ

4 委員の紹介

5 会長の選任

6 諮 問

7 会長あいさつ

8 副会長の選任

9 議 題

(1) 総合計画及び行政経営システムについて

(2) 第2期基本計画の策定方針、策定体制、策定スケジュールについて

(3) 第1期基本計画の振り返りについて

(4) 新型コロナウイルス感染症にかかるアンケート結果について

(5) 第2期基本計画の施策体系案について

10 その他

- (1) (仮称) 焼津市DX推進計画 策定方針について
- (2) 審議会の開催予定

11 閉 会

6 内 容

(1) 開会

(事務局より出欠の確認及び司会進行の紹介)

(2) 委嘱状交付式 (3) 市長あいさつ

(市長より委員へ委嘱状交付)

令和3年度第1回焼津市総合計画等審議会にあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

まずはこの度、大変お忙しい中、総合計画等審議会委員を快くお引き受けいただき、まことにありがとうございます。

また、公募では市民の皆様から、積極的なご応募をいただく中で、5名の皆さまを選出させていただきました。

日頃より、皆様方におかれましては、それぞれのお立場で焼津市の発展のためにご尽力をいただき、重ねて感謝申し上げます。

さて、市では、平成30年3月に第6次焼津市総合計画を策定してから3年が経ち、将来都市像である「やさしさ 愛しさ いいもの いっぱい 世界へ広げる 水産文化都市 YAIZU」の実現に向け、市民の皆様や事業者様と共にまちづくりを進めておりますが、ご存じのとおり、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、社会や経済状況が大きく変化し、本市においても、市民生活や経済活動において大きな影響を受けております。

そのような中、今年度、総合計画において行政活動の一番の基本となる政策及び施策である第1期基本計画の見直しのタイミングを迎えています。

1年前と比べ、新型コロナウイルスの特性の分析が進み、ワクチン接種による効果に期待が膨らむ中、令和4年度からの4年間の焼津市のあるべき姿を展望していくにあたり、審議会委員の皆様のお力をお借りしながら、また、それぞれのお立場の視点から、忌憚のないご意見をいただく中で、新たな政治課題を市民とともに対話を重ねながら前に進んでいきたいと考えております。

<市長より各委員の紹介>

本審議会におきましては、各界でトップの方々、また人間性もすばらしい方々にお集まりいただいたことをうれしく思います。

コロナ下を乗り越えるためには、たくさんの対話の積み重ねが大切であると考えています。皆様には、この機会を通じて、焼津市を更に指導していただくことをお願いいたしましてご挨拶とさせていただきます。

(4) 委員の紹介 (5) 会長の選任

- ・(委員及び事務局紹介)
- ・会長の選任(委員の互選) 会長：井柳 美紀委員

(6) 諮問 (7) 会長あいさつ

- ・(第6次焼津市総合計画第2期基本計画の策定に関し、市長から審議会へ諮問)
- ・(会長あいさつ)

審議会の会長という大役を仰せつかることになりました井柳と申します。
改めましてよろしくお願いいたします。

先ほど市長から審議会に諮問をいただき、これから審議をしていくこととなります。

市政を取り巻く環境について、様々な課題があるかと思いますが、市長からもお話がありました、新型コロナウイルスの問題が大きいと思います。市民の生活に大きな影響を与えており、経済的負担も踏まえた対応を行うべきであると思います。

また、中長期的な問題としては、少子高齢化が挙げられます。全国自治体共通の課題ではありますが、生産年齢人口が大幅に縮小していく中で、地域社会をどう維持していくのかを検討する必要があると考えております。

そのような状況下であります。この審議会では、専門家の皆さまのお立場や経験を、市民委員の皆さまには、日常の感覚を大切にしたい意見をいただきながら、審議に努めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(8) 副会長の選任

- ・副会長の選任（会長より指名） 副会長：鈴木 政史委員
- ※別公務のため市長退席

(9) 議題（１）（２）

- ・（事務局より説明）
- （１）総合計画及び行政経営システムについて
- （２）第２期基本計画の策定方針、策定体制、策定スケジュールについて

委員：「第６次焼津市総合計画及び行政経営システムについて」（P6）の中の将来都市像に込められている思いの中で、「安全で安心して暮らせる」との文言がある一方、「住み続けたい、住んでみたい、行ってみたいまち」との文言がある。後者を「暮らしてみたい」としたほうが合うのではないか。

事務局：ご指摘いただいた将来都市像、基本構想については、今回改定を行わないこととしているため、ご意見として頂戴し、現状のまま進めていければと思う。

委員：「将来都市像そのものの考えを変える必要が生じた場合には、見直すこととします」との文言があるが、新型コロナウイルスの影響により、市民の生活が大きく変化している中で、見直しをしないこととした理由を説明していただきたい。

事務局：将来都市像については、第６次焼津市総合計画策定時に定めたものである。将来都市像については、第１次から６次まで每期策定を行っているが、市民の描くまちの理想像は変化していないことがわかった。見直しが必要かどうか協議を行ったが、焼津市がこういってまちになってほしいとの思いは変わらないと判断し、見直ししないとの結論に至った。

委員：行政経営会議について、前年度の振り返りも踏まえ今後の課題の検証を行い、コスト配分等もしっかりと議論された上で、次年度の方針や新規企画拡充等の加えることの議論はされていると思うが、棚卸という観点から廃止していく事業等の議論についてはされているのか。

事務局：市が目指すべきものに対しやるべき事業があれば予算の配分の中で行っていくが、不採択の部分についてもコストを見て必要性を検討した中で、不採択といった形をとっている。施策については、毎年度所管課にて評価を行っており、廃止や統合となるものもある。

委員：日程スケジュールについて、新型コロナウイルスの影響により変更する場合があると思われる。最終的に冊子の策定完了が年度末というところは動かせないと思うが、万が一最悪の状態を想定し、本日のように対面での開催が出来ない場合は、どのような形での開催を想定されているのか。

事務局：昨年からこのような状況が続いており、緊急事態宣言等が出ている中で、遠隔での会議も多々行っている。その中で、手法はたくさんあると思うが、デジタル化を進めている中、会議の在り方も変化してくる。対面での会議が一番望ましいが、場合によっては、web やリモートでの開催も考えている。

(10) 議題 (3) (4)

・(事務局より説明)

(3) 第1期基本計画の振り返りについて

(4) 新型コロナウイルス感染症にかかるアンケート結果について

委員：「新型コロナウイルス感染症に関わるアンケート調査分析結果」(P7) について。新型コロナウイルス感染症の拡大による施策の緊急度について説明があったが、医療や福祉といった分野が市民の関心もあり、事業の緊急度も高い項目となっている。この情報を今後分析して活かしていくとなると、ここに恐らくコスト、財源が投下され、様々な事業が載ってくると思うが、こうした応急対応に個別で取り組んでいくのではなく、グラフの中盤にあるような、恐らく中長期的な投資分野かと思うが、ここを行うことで、緊急度の高い分野も一網打尽にできるという思いが芽生えた。

上位ランクされた項目にどのような形で事業を行っていくか。それが財源投下なのか仕組みを構築していくのか、また費用については具体的に何をやっていくのか。

事務局：アンケート調査に関しては、市民2,000人にアンケートを実施した。現状把握のために必要ということで実施させていただいた。具体的な施策についてはこれから検討させていただく。まずは、コロナ化及びアフターコロナについて市民がどう考えているかについて調査させていただいたところである。

委員：「第6次焼津市総合計画第1期基本計画施策成果指標一覧」について。未達成の項目について、次年度に活かすために検討を行っていると思うが、その内容について教えていただきたい。

事務局：行政評価システムについては、市で評価を行い、PDCA サイクルを回している。未達成部分については、分析して何が足りなかったのか、それに対して今後どうしていくのかを検討している。担当課にて日ごろからPDCAにて回している。ただし昨年度については、コロナの影響により交流人口関係が厳しい結果となった。外出自粛等の中では避けがた

い事態であった。次期計画では新しい生活様式に合わせた成果指標を考えていきたいと考えている。

(11) 議題 (5)

・(事務局より説明)

(5) 第2期基本計画の施策体系案について

委員：2点質問がある。1点目は、オレンジで色分けられている、恐らく外的要因の部分（横断的な取組み、リーディングプロジェクト）かと思うが、昨今言われているカーボンニュートラル社会、環境問題、環境対策といったところが追加されるのかと思うが、それが主たるもので、全て含まれていないという表現の仕方なのかをお聞かせ願いたい。

2点目は、案の下にある部門別の施策について、分断的にするのではなく、互いが結びつきながら、行っていくのが得策であると思う。例えばデジタル化について、DXの推進という点で、それが健康にも医療にも福祉にも、全てにおいて結びつきが考えられるため、部門ごとに情報をやりとりしながら、推進をしていただきたいと思う。

事務局：まず、環境については、計画5の中の防災・都市・環境というところで取り上げていければと考えているが、各分野、各部門にも共通する部分があるため、検討を進めていきたいと考えている。合わせてデジタルについても、どの分野にもデジタルというものが必要となってくるため、取り入れていくという形になるが、まずは計画6の中で、主だったDX部門を強化していきたいと考えている。

委員：資料の案でいくと、今まで21あったものが、25の施策として分けてこれから肉付けしていくとのことであるが、それは審議会でやるのではなく、素案は行政側で作成し、それを議論していくのが審議会ということによろしいか。

事務局：委員がおっしゃられたとおり、現状は21の施策がある。施策の柱の素案については、まず所管課長に案を提出してもらい、それが21でよいのか、新たな施策を加えるのか、まずは行政と市民会議で検討をし、まとめたものを皆さまにご協議いただければと思っている。

委員：PDCAで回せているという部分について、8年前には回せていないとの話があった。これをきちんと成果として出しているということは、8年の市政運営の成果として評価できると思う。今回、市民協働、市民参加というところで、政策6に「対話を重ね未来を望むまちづくり」が入っているが、どの自治体でも、新聞を見ても対話という言葉がたくさん掲げられている。対話をどうとらえるのかという点で、市民の意見を聞いたからといって、それは決して対話ではないと思っている。市民会議を行う際、これからアフターコロナの時代で、コロナという未知のものを生活に迎え入れる、新しい生活をしなければならぬ中で、市民がもっと自治力を高めていかなければ間に合わなくなると考えている。やはり行政は与えることを行うが、市民が受け止めるだけになってしまっただけではないと思う。市民として何ができるのかということに着目しながら、市民会議を行っていただければと思っている。

私も水産業を経営しているが、業況が良くない先もある。良くない先でも、一時金等の受給により一時的に逃げるのではなく、その先の経営を学ぶ場をつくるということ、人づ

くりの部分をしっかりに入れていかなければ、この先間に合わない時代が来るのではないかと思う。牧之原市は自治基本条例に「対話の場と人づくり」という条文を入れている。対話を通して、その先の人づくりということをしっかり行っていかなければならない。行政だけが常に支えているという形から、協働の形に移していくのに、今がよいチャンスではないかと思うので、市民会議等で市民の意見を吸いあげる、また市民の底上げをしていただければうれしいと思う。

事務局：まさしくおっしゃる通りの観点で進めていければと思っている。これからの世の中、人口減少社会、経済が縮小していく中でどのように事業を行ったらよいか考えながら進めてきたところである。そこに合わせてコロナ禍ということで、行政の役割、市民の皆様の役割といったところを定めて、これからの行政を進めていくということ。また、地域コミュニティの在り方を見直しているところである。それを含めて進めていければと思っている。

委員：今の件に付け加えて、男女共同参画という点が、焼津市において置き去りにされつつあると感じている。今日本がどれだけ遅れているかという点が如実に報道されているところである。本市もあまり参画が高いほうではないと、以前委員をする中で感じているが、その点を汲んだ、例えば市民会議の際も、女性の参加を増やす対策をしていただきたい。それには、アナウンスの仕方、人の集め方が大事ではないかと思っている。そこも力強くお願いしたいと思っている。

委員：政策に環境を加え、地球温暖化防止、水資源確保を入れてほしい。今、リニアの問題があり、水資源の問題がある。当市は水産都市をうたっているが、多くは水産加工業で成り立っている。水を使っているということ。湧水量の低下ということは大変な問題で、枯渇問題になる。大井川の河口は焼津である。上流部の荒れは下流部に影響を及ぼすので、関連地域と連携してはどうかと思う。地球温暖化という大きな問題も、環境問題もあるが、リニアの問題というのは避けて通れない。その水資源問題をどうするのかということについて、基本計画にきちんと位置づけて、市民会議で話し合っていかなければまずいと思っている。仕事柄いろいろな方にお会いするが、東日本大震災の際に焼津の沿岸部でも影響を受けた。藤枝へ転居された方、特に若い世代が多いと思う。その中で、焼津市が誇れるものは何なのかという基本概念というか、焼津はよいところだという、これだけは譲れない、大切にするという骨格を突き止めるのが審議会の役割であると思っている。それを今後育成していくにはどうしたらよいか、施策を時代に合わせて作り変えていくことは大切だと思うが、骨格を市民意識の中に植え付けていかなければならないと思っている。それを作り上げていくプロセスと、市民会議での協働精神を啓蒙する手段・方法の検討も大切であると考えている。

委員：焼津市というまちの運営を、背骨をしっかり固めたうえで、やっていくとなるとどうしても資金の問題が浮き彫りになってくる。税収の推進役になると思っているのが、ふるさと納税の取り組みであると思う。焼津市は以前、全国トップクラスの実績を誇ったふるさと納税の活用であったと思うが、この部分を再度推進していただければ、税収も増えて、よりよい運営ができるのではないかと思っている。特にコロナ禍において、人が観光に行き、旅行先で買うという動作ができない中で、ツールであるふるさと納税を伸ばしていくことによって税収を増やし、すべての人たちにウィンウィンの関係を築けると思う。その部分も審議会で話していければと思っている。

会 長：時間も超過しているため、このあたりで審議を終了したいと思います。活発な意見が出たことで、よい議論ができたと思います。本日は進行にご協力いただきありがとうございます。第1回審議会を終了いたします。事務局に進行をお返しします。

(12) その他

- ・(事務局より説明)
- (1) (仮称)焼津市DX推進計画 策定方針について
- (2) 審議会の開催予定

(13) 閉会